

久留米大学を受診した患者さんへ

「経カテーテル大動脈弁留置術 (TAVI) 術前評価 CT のプロトコルの検討」について

この研究では、TAVI 術前検査として、CT 検査を受けた患者様の造影剤使用量と撮影線量の指標を示す Dose Length Product (DLP) と CT 値を使用します。

- 1) 期間：平成 25 年 10 月から平成 27 年 7 月まで
- 2) 受診科：循環器病センター
- 3) 対象疾患名：大動脈弁狭窄症の診断で上記期間中に TAVI プロトコル CT 検査を受けた患者様
- 4) 使用する試料（情報）：診療情報等

あなたの情報を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承いただけますよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：久留米大学病院 画像診断センター

研究代表者：診療放射線技師	東 純平
研究分担者：診療放射線技師 副技師長	川田 秀道
診療放射線技師 主任技師	坂井 真二
診療放射線技師 副主任技師	黒木 英郁

2) 研究の意義と目的：カテーテルを用いる大動脈弁置換術（TAVI）の術前検査として、造影 CT 検査は重要な役割を果たしています。生体弁を挿入する際に用いる太い管を血管内に挿入可能かどうかの判定や、実際に置換する生体弁サイズの決定、また、CT 画像から 3D で血管を描出し、手術の際のシミュレーション画像としても役に立ちます。しかし、TAVI 手技に適応する患者様の多くは一般的に高齢であることから、腎機能障害を有することも多く検査で使用する造影剤減量考えることが非常に重要になります。

当院の TAVI プロトコル検査は、心臓（心電図同期）と大血管（心電図非同期）を個々に 2 回撮影（従来法）を行っていました。今回、当院に 1 スキャンで 160mm の範囲を撮影できる 256 列マルチスライス CT が導入され、心電図同期撮影と非同期撮影を 1 回で撮影（新型プロトコル）することが可能となり、被曝低減と造影剤減量の両立したプロトコルを作成したので従来法と比較します。

3) 研究の方法：当院で TAVI プロトコル検査を受けた患者様を放射線情報システム (RIS) からピックアップし、業務で使用している患者データベース (ファイルメーカー) から体重、撮影機種、使用造影剤量、CTDIvol、DLP を抽出します。解析方法は、撮影機種ごとに造影剤量と DLP を CSV 出力で取り出して、従来法と新型プロトコルそれぞれの造影剤量と DLP と CT 値を解析します。データ管理方法は、CT センター内にある PC 端末の放射線技師専用フォルダ内に収納管理します。セキュリティのため、データベースにアクセスするためのパスワードを設定し、部外者が開けないように厳重に管理し、保存期間は 10 年間とします。

4) 研究期間：平成 27 年 8 月倫理委員会承認後から平成 28 年 8 月まで

5) 上記の情報の使用を選定した理由：ありません

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：個人情報保護のために使用する患者様のデータは全て連結可能匿名化し、発表に使用する画像データに関してもアノテーションを全て削除します。

7) 研究成果の発表の方法：第 10 回九州放射線医療技術学術大会（2015 年 10 月・11 月発表予定）

8) 利益相反：利益相反はありません

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

久留米大学病院 画像診断センター 東 純平

〒830-0011 福岡県久留米市旭町 6 7

TEL：0942-31-7635 内線 5415